

おわりに

東海村地域福祉計画推進会議委員からのメッセージ



松井 淳子委員

本計画の策定にあたり、学生委員さんから長年福祉活動にご尽力いただいているベテランの委員さんまで、幅広い世代のメンバーで話し合いが行われ、いろいろなことを勉強させていただきました。

時代が変化するにつれ福祉のニーズも多様化するとともに、支援を必要とする人も増えています。一方で個人情報など制限されるものも多くなり、福祉活動の取り組み方への課題もたくさんあります。

今年はコロナウイルス感染症の影響により多くの活動が制限されました。

こういった状況下では大きなコミュニティでの活動は難しく、より小さく身近なコミュニティでの助け合いが重要になってくるのではないかと思います。

その時・その状況において自分になにができるのか、みんなで考えていけたらいいなと思います。



鈴木 竣介委員

私は任期を残しながら就職のため千葉に引っ越しました。引っ越した街でその地域がどのような街でどのようなことに力を入れているのかを、私は地域福祉計画推進会議に参加させていただけたおかげで、知ろうと思い、知ることができました。

千葉に引っ越してからは仕事の都合や新型コロナウイルスの影響もあり、参加できないことも多くたくさんのご迷惑をおかけしました。その中でも任期最後まで委員として東海村の福祉を考えることができたことにとっても感謝しています。

今後は自分のように若い方々に地域福祉について考えてもらえるような働きかけを積極的に行っていきたいです。



大沼 瑠菜委員

社会の変容と技術革新の目ざましいこの時代にあって、地域福祉にニーズも同様の加速度で拡大しているように感じます。それに加え、新型コロナウイルスの影響で大きな孤独感を持ったり、通常よりも多くの補助・支援が増えたりしました。混沌ともいえる世の中で、少しでも多くの人々が平穏な生活を送ることを願っています。そのためにも、地域に根ざした福祉支援が必要です。

私の友人にも精神疾患を持つ人がいます。しかし、学生であるということもあり、彼が十分な理解や支援を受けられているとは言い難いです。このような状況も実際に見て、一刻も早く地域福祉が浸透することが必要だと考えています。

今後の社会における最大多数の最大幸福のために、益々努力していきたいと思えます。



小泉 朱音委員

小さな頃から過ごしてきたこの東海村に、こういった形で関わらせて頂けたことをとても嬉しく思っています。

私は数年前まで、地域福祉についてはどこか遠くのここのよう、地域での取り組みにあまり関心がありませんでした。しかし今回、地域福祉計画の策定に携わる中で、福祉は他人事ではない、ということに改めて実感したと共に、支え合う大切さも学びました。より良い地域を創るのは、ここに住む私たち、みんなの力です。私も少しずつ、東海村の為になることをしていきたいと思っています。支え合いの輪がどんどん広がっていき、皆さんがより幸せに暮らせる地域になっていくことを願っています。



岡部 恵子委員

相次ぐ災害や事件、そして、今度はコロナウイルスの感染拡大で世界中が、未曾有の危機に襲われ、未だ終息の見込みもない。

こんな中、地域福祉計画推進会議も一部リモート会議となり、世界中の人たちと、宇宙ステーションとも交流できてしまうテクノロジーの便利な時代となった。

しかし、多くの人はずなっているはずなのに、オンラインでは体感できない存在感が必要、安心できる居場所や信頼できる人間関係が大切であった。何よりも、安心して暮らせる日常を願い、家族とのつながりを強く感じた1年だった。

第4次東海村地域福祉計画に当たり、今さらながら、「ながよくやっぺよ、TOKAI」の地域づくりには、まず、近所、自治会など地域の人たちが、互いに思いやりをもって助け合い、励まし合い率先して行動することが先決。小さな一歩から、明るい未来への輪を広げたい。



根本 仁子
副委員長

「東海村地域福祉計画のこども版です。家族と一緒に読んで下さい。幸せになるためのことが書いてあります。」

と、やったん祭りで子ども達にパンフレットを手渡しました。

この子達が、大人になった時も東海村が、地域で支え合い笑顔でいきいき暮らせるまちとして発展していることを想い描きながら。

そのためには、今、大人の私たちができることは、日常的に支え合うことができる活動をできる範囲で実践することです。

声をかけあって、“ながよくやっぺよー”を合言葉に、活動に参加し、一緒に行動していくことだと思います。

未来を担う子ども達をはじめ、誰もが、安心した生活を送ることができる笑顔溢れる地域に、東海村にしていきたいと思います。



飯島 真里子
委員

「生まれも育ちも東海村です」と進んで言えるようになったのは30歳を過ぎてからと思いますが、このような素晴らしい村に発展したのは歴代の東海村の方々のおかげです。

地域福祉計画のメンバーとして様々な立場の方や幅広い年齢層の方々と接し、福祉について考える機会を頂けたことは、自分の視野が広がりボランティアなどに参加するきっかけにもなりました。

これからは恩送りです。住民の声を代弁し、微力ですが行政や村社協とのかけ橋になれるように努めたいと思います。

そして、この計画に関心を持って家族や友人・職場で話題にし、将来の東海村を担う児童・生徒・学生の皆さんが『明るい未来や希望が持てるまちづくり』を実現していく原動力になることを願っています。



深谷 真吾
委員長

<向こう三軒両隣>古くから歴史のあるお寺の見えるご近所付き合いの盛んな地域で育った私は、以前に比べ地域の繋がりが薄れてきていると感じていました。要因としては、少子高齢化・孤立化によるものと叫ばれております。そのような状況の中、近年の大規模地震・洪水といった災害の頻発。そして、追い打ちをかける様に人と人の繋がりを隔てるコロナ禍。この様な時こそ地域での助け合い、支え合いが必要なのではないでしょうか。この計画は、「ながよくやっぺよ TOKAI」のもと、前期委員より想いを受け継ぎ、他人事では無く、我が事として取り組んだ委員の方々、アドバイザーの稲垣先生、役場職員の地域(東海村)に対する熱い想いが、込められています。

ご覧いただいた方は、いかがでしたか。興味の有る所からでも是非、この計画をのぞいて見てください。ご自分の生活している地域にこれから何が必要なのか？一緒に考え活動してみませんか？



茅根 元次委員

「東海村地域福祉計画」を”餅”に例えたとしたら、4白目がつき上がりました。「つき手」の委員のみなさんは、高校生を含めた複数の学生さんが加わり、グンと若々しく杵の動きも力強く感じました。

「蒸し方」は行政職員の方が担い準備万端。また「相手の手」としても「つき手」の呼吸を量りつつ、恙なく進めることが出来ました。

そして、作業が見渡せる台上の椅子には「餅つき専門家」の稲垣先生が見守り、作業の状況や隘路事項のアドバイスを頂くことができ、無事に餅つきを終えました。

偶然にも、私は2年前に「地域福祉計画推進会議」に参加することになりました。「福祉」といえば本書の「序論」等に記述の『向こう3軒両隣』くらいしか思いつかない素人レベルの年寄りにとっては、稀な学習の機会だったと感じています。

さて、つき上がった餅(地域福祉計画)は、多くの人に食され、それを地域での福祉活動の糧として消化されることが肝要です。一人ひとりでは微力でも、多数で夫々の持てる力で活動に参加し、真に「住めば都」という居心地のよい地域作りを進めたいものです。



大内 智弘委員

私は、東海村社会福祉協議会から「支え合いコーディネーター」という立場で、前回から引き続きこの委員会に参加させていただきました。コーディネーターは、ボランティア活動等の住民活動と専門職、行政など、様々な人やサービス(資源)を繋げていく役割を担っています。

この地域福祉計画には、学生をはじめ、普段から住民活動を行っている地域住民の方など、様々な方が携わっていますので、私自身の立場としても、委員の皆様の意見や考え方を聞く貴重な機会となりました。

突然のコロナ禍により、“人と人とのふれあい”自体が難しい状況になってはいますが、計画遂行という俯瞰的な視点と、住民目線の視点を合わせて、この難局を乗り越えていきたいと思います。



横須賀 こそみ
委員

ここに第4次東海村地域福祉計画が完成を迎えるまで、幾度もの話し合いの場が持たれました。東海村に住むさまざまな世代の方が集まり、地域福祉という大きな、そして大切なテーマに関して意見を出し合い、計画を練り上げました。

東海村が誇れることの一つに、地域の人々の“想いの熱さ”があると思います。この計画には、熱い想いをを持った住民一人ひとりの「夢」と「希望」と「将来への約束事」が記されています。

今、そしてこの先の未来もずっと、東海村に住む誰もが「ここで暮らしてよかったなあ」と思えるように…。これからも東海村の地域福祉について住民と共に考え、共に汗を流していきたいと思います。

第4次東海村地域福祉計画

発行 東海村福祉部福祉総務課地域福祉推進担当
〒319-1192
茨城県那珂郡東海村東海三丁目7番1号
電話 029-282-1711(代)
<http://www.vill.tokai.ibaraki.jp>

発行日 令和3年3月
